

<天録時評>

帝国の慰安婦

韓国人が書いた慰安婦の実像

韓国で出版された『帝国の慰安婦—植民地支配と記憶の闘い』(朝日新聞出版)は、慰安婦の実像に迫った学術書だが、著者の朴裕河氏が元慰安婦への名譽棄損で起訴されていた。ソウル東部地裁は、検察が名譽棄損に当たるとした三十五力所の記述のうち、五力所は事実の適示、三十力所は意見表明として、このほど無罪判決を言い渡した。

朴氏は、資料に基づいて当時の社会情勢を描写し、貧困のゆえに人身売買が行われていたことに触れ、戦場で兵士と苦楽を共にしたという側面など、苦難の人生を送った慰安婦に対して敬意と愛情を持つて論じている。しかし、慰安婦問題が政治問題化し、わが国を誹謗する道具とされたために、多くの日本兵の最後を見送った慰安婦の実像が見失われ、「日本人よりも業者が憎い」とする慰安婦の叫びも失われていると、彼女は鋭く指摘している。わが国でも慰安婦問題に関して誤った知識を持つ人が少なくないので、『帝国の慰安婦』の一部を紹介する。

強制連行の否定

軍による強制連行の有無

少數である」(三十一頁)
としている。

「女たちを誘拐や甘言などの手段までをも使って『連れていった』のはほとんどの場合、中間業者だった。

の場合は、主に朝鮮人や

い女性たちを戦場に連れて

いったのは、主に朝鮮人や

日本人の業者だった」(二

十八頁)と指摘している。

日本人的業者だった」(二

十八頁)と指摘

地域便り
東京都

「廃炉・廃棄物減容化」事業への国民理解を

環境放射能除染学会 第十二回講演会より

福島県内の放射性セシウムを含有している汚染土壤は二千万m³（東京ドーム約十六個分）を超えると言われており、放射能汚染土壤の減容化と再生利用が喫緊の課題となっている。こうした課題を解決すべく「福島の環境回復と廃炉に向けた技術展開」と題した環境放射能除染学会の第十二回講演会が、一月二十七日に東京国際フォーラムで開催された。汚染土壤の減容化技術や再生利用技術について研究する有識者、民間研究者の講演要旨を紹介する。

環境回復へ

今回の講演会では、まず環境省の山田浩司氏による「福島の環境回復に向けた環境の取組と今後の課題」や、原子力損害賠償・廃炉等支援機構の植田拓郎氏による「廃炉に向けた技術展開と今後の課題」について、有識者や民間研究者による講演が行われた。その後、環境省の取組と今後の課題

限定的であること、溶存態セシウムは、最も濃度が高いところでも一ベクレル／ℓ未満であることといった情報が紹介された。

合わせ技で減容化

国立環境研究所の山田一夫氏は「減容化・再生利用技術に関する研究開発状況と今後の課題」と題して、汚染廃棄物の減容化と再生利用についての研究結果を報告した。その中で、汚染廃棄物の減容技術は主に「分級・洗浄処理」「化学処理」「熱処理」の三つがあると紹介した。「分級・洗浄処理」とは、放射性物質セシウムの粘土に付着しやすい性質を利用し、除染で発生した除去土壤をふるいにかけ、研磨や洗浄をし、再生利用可能な資材（礫・砂分）と、その処理過程で発生する廃棄物（シルト・粘土の細粒分濃縮物など）とに分別する方法。「化学処理」

ウムの河川水系への流出は取り組みにも生かしていることが紹介された。

福島第一の廃炉に向けた取扱い組みで、土壤表面に作用させることでセシウムを分離し、吸着剤で回収する方法である。「熱処理」とは、熱により土壤からセシウムを揮発させて分離し、バグフィルタで吸着させ回収する方法である。

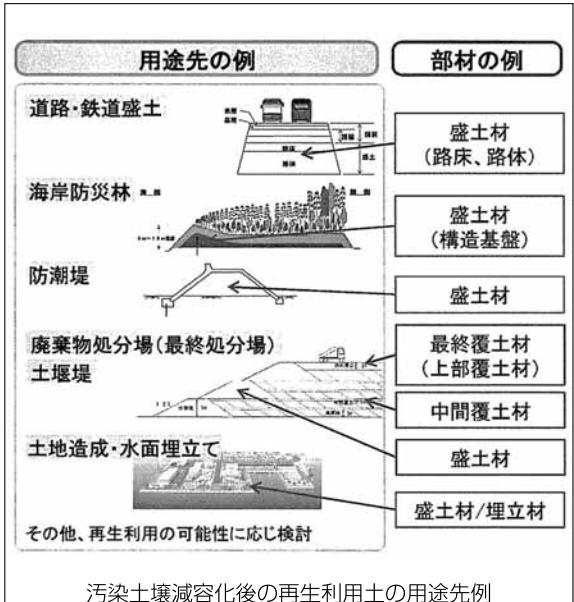
山田氏は、こうした技術を組み合わせて、二千万m³を超える汚染土壤の減容化を実現することが求められるとして述べた。また、再生利用率の基準である放射能濃度八千ベクレル／kg（年間一ミリシーベルトの追加被曝線量を超えない放射能濃度の上限）以下の資材量を増やし、最終処分は四万m³程度に抑えていくことが求められていると述べた。

に公開している。

四つ目は、福島第一の敷地外（オフサイト）の土壤の放射性物質の組成とその分布に基づき、福島第一の敷地内（オンサイト）の土壤の放射性物質の分布状況推測の手法を例示したことである。JAEAが開発した放射性物質計測技術を、福島第一の廃炉に向けた取り組みで、心も身体もリフレッシュできる施設が整っています。

また、年間を通じて、地域のにぎわいづくりにつながるような様々なイベントを開催しています。平成28年3月には、地元の「農・畜・漁」食材を利用した地産地消カフェ「アグリズム・カフェ」をオープン。

憩いの空間として進化し続けるグリーンパークへ、ぜひお越しください。



人材確保

北海道大学大学院の佐藤努氏は「再生利用からみた欠な事業であり、それに従事する若い人材を確保することが求められていると訴えた。

福島第一の廃炉に向けた研究開発へ、河口域へと至るセシウムの移動と蓄積を定量的に解明したことである。現在は、森林に残存する放射性セシウムは新聞やホームページ等



ビューテラスからの大芝広場のながめ



みつばちフリマ開催のようす



地産地消カフェ「Agrizm cafe」



ご当地ヒーロー「キタキュウマン」

響灘緑地（グリーンパーク）

北九州市若松区大字竹並1006番地
響灘緑地管理事務所
TEL 093・741・5545

TEL 093・741・5545

北九州市最大の都市公園である「響灘緑地」は、「グリーンパーク」の愛称で親しまれています。広い園内は、楽しみがいっぱいです。

4ヘクタールもの広大な大芝生広場をはじめ、冒険の森、ビューテラス、ポニー広場、じゃぶじやぶ池、ビアテラス、野外ステージ、サイクリングターミナル、グラウンドゴルフ、おもしろ自転車、サイクルボート、都市緑化センター（花と緑の相談所も設置）、バラ園、カングルー広場、熱帯生態園など、花と緑に包まれて、心も身体もリフレッシュできる施設が整っています。

また、年間を通じて、地域のにぎわいづくりにつながるような様々なイベントを開催しています。平成28年3月には、地元の「農・畜・漁」食材を利用した地産地消カフェ「アグリズム・カフェ」をオープン。

憩いの空間として進化し続けるグリーンパークへ、ぜひお越しください。

Cycle shop
T-Planet
矢ヶ部 智之

〒808-0145 北九州市若松区高須南1丁目13-20
TEL/FAX (093) 742-7088
http://www.ks-bar.com/t-planet/

炊飯・懐石仕出し・会社給食
日乃出食品株式会社

北九州市八幡東区東田1-3-15
TEL 093-672-3787
FAX 093-672-3712

宮田税務合同事務所

〒920-0937
石川県金沢市丸の内5-12
TEL 0762-63-2566

個人 大庭(英)タクシー
携帯電話 090-8767-5261
大庭 英嗣

〒808-0054
北九州市若松区久岐の浜

登記業務(不動産登記・商業登記)
成年後見業務・簡易裁判所代理業務
坂本司法書士事務所

司法書士 仲吉 良爾
司法書士 栢 正一郎
北九州市八幡東区中央1丁目3番9号
TEL 093-662-7816(代)
FAX 093-662-5034

